

コーポレートベンチャーキャピタル活動

MCHCは、グローバルにスタートアップ企業と協業し、双方に新たなビジネスの選択肢を創出することをめざす「コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)」活動に2018年から取り組んでいます。

2021年度からの10年間は、既存領域のビジネス拡張に1億5,000万米ドル、新領域の開拓に5,000万米ドルの投資を予定しています。

世界中のスタートアップパートナー企業と 新たなビジネス創出に向けて協業

MCHCは、2018年シリコンバレーに子会社Diamond Edge Ventures, Inc. (以下DEV)を設立し、CVC活動を3年にわたり続けてきました。これは、日本、北米、欧州に籍を置くメンバーが、MCHCグループの事業部と深い関係を築きながら、MCHCとスタートアップパートナーの双方にビジネスの選択肢を創出するための協業を強力に推進する取り組みです。出資(2021年4月現在、出資先企業5社)という枠組みに

とどまらず、幅広い形での協業を進めています。これまでCVCチームからMCHCグループ全体に1,000件以上の案件を紹介し、12件の共同開発契約(JDA)と6件の事業契約を含む200件程の協業につながっています。今後も、既存事業を拡大するための「プラットフォームファンド」と、MCHCグループの新たな成長分野を確立するための「フロンティアファンド」の両方を軸に長期的なCVC活動に取り組んでいきます。

Diamond Edge Ventures, Inc. 社長のコメント

飛躍的な前進を成し遂げる「真のイノベーション」の実現に向けて、 今後も取り組みを続けます。

「後ろを振り返るだけではイノベーションを成し遂げることはできない」。

この言葉を初めて聞いてから何年も経ちますが、今でも私の心に響いています。現行のプレーヤーの動向を注視して戦略を立て、市場知識を駆使して競争力強化への道筋を明確にするというアプローチは、非常に魅力的です。ただ残念ながら、真のイノベーションとは、遅れを取り戻そうとすることではなく、飛躍的に前進することなのです。そのためには、外部からの支援が必要な場合もあります。これは、スタートアップにも、MCHCのような大企業にも言えることです。

私は、DEVが3年足らずで築き上げた出資ポートフォリ

オを誇りに思っています。イノベーションへの道は決して平坦ではありませんが、スタートアップパートナーと共に事業価値創造に取り組むことで、MCHCが壁にぶつかったり、回り道をするのが少なくなるよう、今後も支援していきます。



Diamond Edge Ventures, Inc. 社長
Patrick Suel

三菱ケミカルホールディングス

	プラットフォームファンド	フロンティアファンド
期間	2021年度～2030年度	
概要	スタートアップ企業との協業による 現ビジネスの拡張を主軸とする投資	将来の事業パイプライン創出のため 新領域の開拓を主軸とする投資
注力領域	KV30実現のための、現行・近接領域	KV30拡張のための、未踏領域
成果	既存事業の新たな収益	将来の新たな収益
ファンド額	\$150M(10年)	\$50M(10年)

田辺三菱製薬

創薬ファンド(MP Healthcare)

次世代の半導体製造に寄与する 画期的な技術開発に向けて

2020年、新たにフランスのaveni S.A.がDEVの出資ポートフォリオに加わりました。メモリ、ロジック、照明などに欠かせない次世代半導体デバイスを実現する画期的な金属薄膜形成技術を開発しているスタートアップ企業です。

この投資に伴い、三菱ケミカルとaveni S.A.との間でJDAを締結しました。これは、半導体分野で中核となる自社製品の拡充をめざすMCHCの戦略を反映しています。aveni S.A.のCEOであるBruno Morel氏からは、「非常に複雑な案件だったが、DEVチームの経験や効率性、深い専門知識のおかげで記録的な速さで契約を結ぶことができた」との評価をいただきました。

サーキュラーエコノミーへの貢献をめざす アクセラレータープログラムも立ち上げ

2020年には、サーキュラーエコノミーへの貢献に焦点を当てたアクセラレータープログラム「KAITEKI Challenge」を立ち上げました。これは、気候変動に関するソリューション「Climate Tech」に取り組む北米最大のインキュベーター、Greentown Labsと共同で運営するプログラムです。

プログラムテーマである「Reimagining Proteins, Plastics, and Packaging」は、世界的な資源の過剰消費と廃棄物の増加に対する懸念を解決すべく策定されました。テーマに賛同してくださった多くのスタートアップの中から最終的に選出した6社と共に、MCHCグループの事業部や技術チームが密接に連携して、革新的なコンセプトを実用化してまいります。



環境・社会課題へのソリューション

MCHCのマテリアリティ
●GHG低減

AddiFab ApSへの出資

DEVは2019年6月に、3Dプリントと射出成形を融合した次世代の成型技術を手掛けるデンマークのスタートアップ、AddiFab ApS (以下AddiFab)に出資しました。

その後の展開はまさにCVCのサクセスストーリーそのものです。「DEVのAddiFabへの出資は大成を収めました。この提携は、すでに最初の2年間でAddiFabと三菱ケミカルの両社に大きな価値をもたらしました。」(Mitsubishi Chemical Advanced Materials Inc. (MCAM) Chief Innovation Officer, Randy White)

AddiFabは多くの三菱ケミカル事業部からの商業的、技術的な手厚いサポートを受けて大きく事業規模を拡大しています。例えば、ある事業部はAddiFabのプロセス向けに新しい溶解性樹脂を開発中です。他の事業部では、AddiFabの技術を活用して射出成形事業を多様化し、既存の顧客基盤を超えた事業拡大につなげています。MCAMはAddiFabが開発した自由度の高い射出成形法「Freeform Injection Molding」の独占的なサービスプロバイダーとしてグローバルにこれを展開し、ソリューションプロバイダーとしての地位を強固なものにしています。

MCAMは2020年初めにアリゾナ州にある自社のイノベーション&テクノロジーセンターに導入したのを皮切りに、AddiFab製装置を世界各地に5台設置し、AddiFabの最大の顧客となりました。これらの装置は、米国、ベルギー、日本にてフル稼働中です。

さらに、MCAMは現在、「MCAM SPRINT」という名前で、スピーディーで低価格なプロトタイプ製造事業を展開しています。需要に応えるため、2021年にはさらに拠点を増やす予定です。

今回の提携により、射出成形された部品の機械的強度に、3Dプリントのスピード、デザインの自由度、そして低コストという利点を併せ持つ革新的ソリューションを、世界中の顧客に提供することが可能となりました。



AddiFab製の3Dプリント鋳型の品質検査をする技術者(MCAMアリゾナ州イノベーション&テクノロジーセンター)



AddiFabのプロセスでKyronMAXを使用して射出成形された超高強度の自動車用ブラケット